

栗原市立学校再編計画（案）についての パブリックコメント手続きの結果

平成20年 2月
栗原市教育委員会

平成19年12月1日から12月25日までの間、栗原市立学校再編計画（案）について意見募集を行った結果、41人から110件の意見提出がありました。

提出方法別の人数は、次のとおりです。

提出方法	人 数	割合
郵 送	2人	4.9%
ファクシミリ	14人	34.1%
電子メール	9人	22.0%
持 参	16人	39.0%
合 計	41人	100.0%
件 数	110件	

項目別の意見数は、次のとおりです。

項 目	件 数
はじめに	11件
栗原市立学校再編構想	
1 「栗原市立学校再編計画」の基本的な考え方	15件
2 「栗原市立学校再編計画」の構成と期間	7件
3 栗原市立学校の適正規模の基準	16件
4 適正配置	5件
5 適正化を実現する方法	1件
6 特色ある学校づくり	5件
栗原市立学校再編計画 実施計画	
1 検討の手順	0件
2 「前期計画」	
小学校	5件
中学校	2件
幼稚園	4件
3 「後期計画」	0件
4 具体的な計画	13件
5 推進日程	3件
その他	23件
合 計	110件

各意見の概要及びそれに対する考え方は、次のとおりです。

はじめに

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
1	<p>子どもは、家庭、地域、学校のすべての生活環境の中で育っていく。環境は教育を考える基本であり、その立場で現状を見ると、物的環境の整備は充実向上されても人的構成の環境は劣化の状況へ進んでいる。そんな中で、市教委の学校再編計画は当然の施策であり、再編計画（案）の樹立までの手順は系統的、理論的な進め方であり、その内容も優れて十分なものと考えられる。</p> <p>再編の組み合わせ総括表も適切な組み合わせであり、金中の小中一貫校の創生とか栗原の中高一貫校の創生など他の小中高一貫校の創生も拡大創生を考えたいものである。</p> <p>留意事項として、学校再編によってある地域の「限界集落」の進行に拍車がかからないよう十分な配慮を欠いてはならないと考える。</p>	1件	<p>高い評価をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>小中一貫校・中高一貫校については、金成や栗駒をモデル校として成功させ、その成果を検証しながら、特に中学校における教科担任の確実な配置を目指し、必要に応じて他地域での創設も検討してまいります。なお、単独の小・中学校の場合でも今後は、小中の連携をこれまで以上に強めていく必要があると考えています。</p> <p>「学校再編によってある地域の「限界地域（集落）」の進行に拍車がかからないよう十分な配慮を欠いてはならない」という指摘につきましては、今後、施策的な配慮について、市長部局と具体的に協議してまいります。</p>
2	<p>再編計画に全面的に賛成する。（原則）</p> <p>（条件）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 十数年前の鳥矢崎小と岩ヶ崎小の二の舞は絶対ないように。 2. 幼保一元化は前倒しで実施のこと。 3. 3kmを超える小学生の足を確保すること。 4. 小中学生の校内ケータイの持ち込みは、家族との通信のみ可能な（多機能型不可）ケータイと校則で統一すること。 	1件	<p>賛意をいただき感謝申し上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ご意見は、将来を見据えた再編となることを期待しているものと受け止めます。今後、それぞれの地域で話し合いを行い、市民の皆様のご合意の上で再編を進めてまいります。 2. 幼保一元化の前倒し実施については、市立幼稚園の保育年数の違いを解消することを含めて早い時期に実現できるように努めてまいります。 3. 3kmを超える小学生の通学支援については、今後、具体的に地形なども考慮しながら柔軟に検討していきますが、素案で示した4kmを基本として考えてまいります。 4. 校則の制定は、学校長において決定することになっていますが、保護者の理解と協力をいただきながら提案の趣旨を実現できるように努めてまいります。
3	<p>『学校再編計画』は、市民にとっても現実的かつ将来にも影響する重大な問題でもある。計画（案）作成にあたっては、市教委が事前にアンケート等を行い、それに基づいて案を作り、広く選び公表した検討委員会で検討し、たたき台を作って市民に示し、何度も時間をかけて行うのが普通だと思う。</p>	1件	<p>栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。</p> <p>従いまして、この計画決定が即実施ということではありません。計画を決定した後、個別に地域の皆様方に、教育委員会としての基本的な考え方をご理解いただくとともに、さらに十分な時間をかけて具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行していくものです。このことから、計画の決定が、実施計画ではないということをご理解下さい。</p>
4	<p>地域の伝統・文化のかかわりで、大規模校になったら地域社会やコミュニティとのかかわりはどうなるのか。今後、学区単位で説明会があるようだが、学校に大いにかかわってきた地域・コミュニティにどう説明するのか。20年3月まで結論を出すのは、早すぎるのでは。</p>	1件	同上

5	<p>「①教育の質を維持向上・・・」 再編したからといって良くなるとは思わない。少人数だからこそ、子供一人一人の良いところ悪いところを理解し、勉強に対しても平等にいていねいに教えることができる。それなのに、急に大きくするのは行政の都合ではないか？ 「②子どもたちの成長にとって何が大切か」 預かり保育や学童保育も足りない。築館に1か所しかないのはおかしい。母子家庭、核家族、共働きが多くなった現代、子どもたち・親たちにとって安心・安全が一番なのではないか。それに対して、欠けている部分が多い栗原市に対して、学校再編する前にすべきことが多々あるはず。再編したとしても、いろいろな問題がおきた時、どう対応してくれるのか不安でならない。 「③安心して生み育てることのできる教育環境・・・」 少子化問題が多く取り上げられている今、安心して生み育てられる環境を作っていくことが一番の問題ではないのか？それに対して栗原市はどう考えているのか？</p>	<p>小規模校のよさである、一人ひとりの個性や特性に合わせてきめ細かな指導ができるという反面、教科書に書かれている内容や、いま学んでいることについて「僕はこう考える」「私はこう思う」という、とらえ方の違う意見が少なく、様々な人の考え方を取り入れて、自分の思いや考えを深めていくことができにくい状況が考えられます。市内の少子化傾向が進行する中で、現在7校が複式学級となっており、将来推計から今後、複式学級の基準に該当する学校が16校となることが想定されます。このことから、子どもたちの教育環境が現状のままで極小規模化していくことでのいいのかということが検討の出発点であることをご理解願います。再編後においても、少人数授業やT.T（ティーム・ティーチング）などにより、小規模校の良さである個に応じたきめ細かな指導を継続してまいります。</p> <p>現在は、合併前の旧町村の取り組みを改善してきておりますが、この計画で示す再編後においては、各小学校で放課後児童クラブを設置することなど抜本的に改善していくことにつながります。今後予定している、個別の地域を対象とした話し合いで、ご意見のような不安の解消に努めてまいります。</p> <p>「安心して生み育てられる環境」を作っていくことについては、全く同感であり市長も先頭に立って頑張っています。栗原市次世代育成支援行動計画のもと鋭意努力をいたしておりますが、引き続き努力を重ねてまいります。</p>
6	<p>栗原市教育委員会が栗原市学校教育環境検討委員会に諮問するに至った経緯を説明願いたい。 諮問理由として、栗原の将来を担う子どもたちの教育環境を改善することを最重要課題と位置づけているが、財政的なものはなかったのか。地域からの統合の要望があったのか。</p>	<p>昭和53年度の小学生7521人、中学生4299人と、栗原市となった平成17年度の小学生3912人、中学生2278人を比較すると、小学生は48%、中学生は47%減の現状です。さらに平成17年度現在で複式学級編制校が7校、児童数が60人未満の小学校が10校で全体の1/3となっています。学校規模が小さくなると、児童・生徒のお互いの人間関係の幅が狭くなり、切磋琢磨する機会が少なくなることや授業や部活動等々の活動が制限されることなど適切な集団活動が難しくなります。さらに中学校では、各教科担任が揃わず非常勤講師の対応になるなど、教員配置に関する問題も派生してくることなどから、学校教育環境検討委員会（学識経験者・学校長及び幼稚園長・児童生徒の保護者・関係機関の職員・地域及び関係団体の代表、計20名で構成）を設置し専門的に検討していただいたものです。</p> <p>諮問理由ですが、学校規模が小さくなることを懸念しての諮問であり、検討委員会では財政的な課題を念頭に検討したことはありません。子どもたちの教育のために何が大切であるかを第一に考えたものであります。</p> <p>小規模校や複式学級が編制されている学校の保護者から早急にこの状況を改善してほしいという要望も寄せられており、栗原市教育委員会として、現状の学校教育環境の改善を検討委員会に諮問したものです。</p>

7	<p>4年以上前の合併協議の段階から今年の6月中間報告が広報に載るまで、学校統廃合の問題は、市民の間にはっきりわかるような形で一度も提起されてこなかった。市民が参加した住民ワークショップ、まちづくり委員会でも、合併後毎年行われている住民懇談会にも全く出されなかった。その一方で、昨年3月に検討委員会に諮問し、18回に及ぶ審議を経て今年9月最終答申となった。</p> <p>合併前より今日に至るまで、これまでの一連の行政運営、行政手続は、極めて公平性、透明性と信用性に欠けていると考える。</p>	1件	<p>栗原市教育委員会は、合併前に旧町村で設置した学校をそのままの状態を引き継ぎました。新市教育委員会となり、改めて市内の小中学校の現状をみると、児童生徒数に基づく学校規模や学級の人数によって、子どもたちの学ぶ環境にその違いはないのか、ということが検討の原点です。「合併の目的の一つが学校統合だった」ということではなく、新市の教育委員会としての主体的な取り組みです。</p>
8	<p>「教育再編計画（案）」の本当のねらいは、国の文部科学省の方針ではないか。</p>	1件	同上
9	<p>富野幼稚園・小学校の地域を巻き込んだ学校づくりは大変素晴らしい。上級生が下級生の面倒を見たり、悪いことをした子どもを周りの大人が叱ることができるという、昔は当たり前だったことが今もある素晴らしい学校であり、残していくべき特色だと思う。</p>	1件	<p>地域の方々の学習支援に感謝しており、極めて大事な要素であると考えます。</p> <p>学校再編実施後においても、ご意見のような力が発揮されるような学校運営、地域生活の実現を目指し、関係の皆様と協議を進めてまいります。</p>

栗原市立学校再編構想

1 「栗原市立学校再編計画」の基本的な考え方

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
10	<p>学校は単に児童が学ぶ場所ではなく、その地区の核となる存在である。少子化に加え過疎化に拍車がかかっているため学校の統合を検討しているのだろうが、学校がなくなった地域がどうなるのか、子どもたちが朝と夕方しかいなくなったら、とよく考えていただきたい。長い目で栗原市の今後を考え、大人になって栗原に住む、栗原で頑張ろうと考えられるような魅力のある地域づくり、教育を考えていくことが必要であると考えます。</p>	2件	<p>学校は、児童生徒が集団生活や様々な体験を通して成長していく場です。一方で、学校が地域コミュニティの核としての役割を發揮してきたこと、その重要性は認識しております。また、学校が地域の皆様に支えられてきたことも知っています。しかし、栗原の将来を担う子どもたちの教育環境を改善することが、最も重要であるとの認識で、学校再編計画を策定していくものでございます。</p> <p>栗原を愛し、誇りに思えるような教育活動が展開できるように今後も地域の皆さまと力を合わせて努力してまいります。</p>
11	<p>今回の計画は、教師側、教育委員会側からだけ見て「学校教育を少ない予算で効率的・効果的に推し進めよう」と、定規やコンパス、そろばんではじき出したようにしか見受けられない。文部科学省の方針を丸呑みして、果たして栗原市自身の自立度を高め、特色ある自信のある市政、良き市民づくりができるか大いに疑問である。</p>	1件	<p>今回の計画は、子どもたちの学ぶ環境としての教育環境をどのようにしていけばいいのかが検討の出発点であり、栗原市学校教育環境検討委員会が18回の審議を経て行った答申に基づいて栗原市教育委員会が主体的に取り組む計画です。</p>
12	<p>明治～昭和初期の日本人は教育の大切さを熟知し、教師を信頼し敬慕し、一目おく存在としていた。小学校も歩いて通える範囲に設置した。</p> <p>小中学校を減らし、教育費特に人件費を削減しようというなら、首長ら三役、議員も給料を半額にしたらどうか。議員定数も、本来の定数30人といわず20人ぐらいに減らしたらどうか。</p>	1件	<p>児童生徒、保護者と教師の関係のみならず、あらゆる人間関係の基礎として信頼し合える関係が必要であると考えます。また、今回の計画は、児童生徒の教育環境の整備を第一義に考えたものであり、教育費特に人件費を削減しようとしたものではありません。</p>

13	<p>栗原市になったからといって、学校を統合する必要はないと思う。公平性というが、遠くへ通学するようになることは、逆に不公平になるのではないか。</p> <p>旧1町に1校は残すべきである。小規模校では、本当に人間関係をはぐくんだり、切磋琢磨することはできないのか。</p>	<p>1件</p> <p>栗原市立学校は、旧町村で設置された学校をそのままの状態を引き継ぎました。市内には複式学級を編制する小学校が7校（平成19年5月1日現在）あり、今後も増加していくことが予想されます。一定規模の集団を形成し、集団活動を通して、学力はもちろんのこと、人間性、社会性がはぐくまれていくものと考えています。小学校区の違いによって教育環境に差異が生じることは好ましくなく、その公平性を確保していくことが必要であると考えます。</p> <p>また、通学負担について、既に現状で通学距離の基準を超えている地区も他にはあり、基準を設定した上で必要な支援を行うことを考えています。</p> <p>小規模校では、人間関係をはぐくんだり、切磋琢磨することができないということを指摘しているものではありません。全体的に切磋琢磨し合う（仲間同士で互いに励ましあって学習し、ともに創り上げていくという意味合いで）雰囲気低調になり、個々の向上心が育ちにくくなることを懸念しています。子ども自身の資質や教師の力など、学校規模以外の条件が同等の場合、適正規模を確保した方が小規模の場合より相対的に成果が得られやすいと考えております。</p>
14	<p>「学校が小規模になると、将来にわたって多様な人間関係がつかれず、コミュニケーション能力の低下を招く」というのは、確証ある研究の成果に基づいた結論なのか？ また、教育課程は一定の集団を前提としているとのことだが、カチカチの頭数の論理に当てはめた教育で、良質な子どもを育成し、将来の栗原市あるいは日本社会に有用な社会人を増やすことが可能か？</p> <p>学力低下も主因が明確ではないはず。分析データもないだろうから。今回の検討に際しては、財政的な問題を前提におかず議論した結果であり計画であるという市教委担当者の弁もあった。それならば、もしこの計画どおり統廃合を実施して学力低下を来した場合は、市の予算を投じて元の地域に教職員、生徒児童を逆移動させ、少人数学級に戻す覚悟はあるのか。</p>	<p>1件</p> <p>学校の規模や集団が小さくなることによる様々な懸念とは、学校教育活動においては、集団から様々な刺激、葛藤などの影響を受けて学力はもちろんのこと、人間性、社会性がはぐくまれていくものと考えています。様々な人間と出会い、時には自分と異なる個性の人間と出会う、葛藤しながらもたくましく成長していく場が少なくなりがちであると考えています。また、子どもは、誕生直後の母子の関係から、家族の関係、幼稚園、小中学校、高校や社会へとその人間関係を広げ、様々な出会いを通して、社会性を身につけ「たくましく生きる力」をはぐくんでいくものと考え、適正な規模の学校は子どもの成長にとって望ましいと考えております。</p> <p>小規模校では、学力が低下していくという考え方ではありません。少人数によるきめ細かな指導によって身につく力は当然ありますが、学級内やグループ内での気づきや学びの幅が狭くならざるを得ないことが懸念され、多様な思考過程が存在することや深い理解につなげることの実現が難しい側面があると考えています。</p>
15	<p>私は小学校4年生まで分校の複式学級で学んだ。5年からの本校生活も問題なく生活ができた。「切磋琢磨」できる規模の学級でなくても、特長ある学習で、先生の目が行き届く少人数学級で複式でも、将来に十分な対応ができる社会性、人格形成の教育は受けられると思ひ、小規模校でも十分と思う。</p>	<p>1件</p> <p>小規模校のすべての児童生徒が社会性等が身につかないということではありません。子ども自身の資質や教職員の指導力などにより、かなりの部分はカバーできますが、小規模校の場合は、相対的に比較して困難な部分があると考えています。</p>
16	<p>法律の基準では「16人以下」となるが、16人でも複式学級になっていない現状からすれば、県が行っている「加配措置」について触れるべきでないか。</p>	<p>1件</p> <p>教員の「複式学級の解消加配」については、県単独予算での事業であり、安定性・継続性が保障されないため、計画（案）では触れておりませんでした。案のとれた計画では、そのような加配制度についても明記いたします。</p>

17	<p>なぜ複式学級はだめなのか。大目小学校は、今まで何年間も複式学級が続けられてきているが、いじめもなく、不登校の子もいない、一人ひとりに目が届き学力もしっかりと根づいているとのこと。私が望むとすれば、鶯沢小や岩ヶ崎小や尾松小と交流学习があってもいいのではないかと思う。卒業すれば栗駒中学校と一緒に勉強するのだから、前もって交流しておくといふと思った。他の学校が文字小に来て少人数の良さや自然のすばらしさを学び、逆に文字小の子どもたちが鶯沢小や岩ヶ崎小や尾松小に行って多人数の良さや商店街、エコ環境施設等、異なる環境で学習する。他の学校の人たちと友達になる交流が大切だと思う。サッカーや集団活動も実現できる。統廃合しなくても、交流学习でできる学習はたくさんある。統廃合という一つの選択肢だけでなく、交流学习もあるという、さらに広げた複数の提案を出してほしい。</p>	2件	<p>複式学級では、学年を越えた学び合いあることなどの良さがありますが、複式学級における学習指導上の問題点は、児童数が極めて少なく、しかも上・下2個学年を同一時間内に指導しなければならないことで、次のようなことが学習指導上の問題点として考えられます。</p> <p>複式学級では、2個学年の学習が同時に進められるために、構成学年に対する指導が「直接指導」と「間接指導」に二分されるので、時間不足になりやすく、指導の徹底を欠くことがある。</p> <p>少人数学級のため、どうしても思考の範囲も狭くなりやすく、単純で一面的な思考が見られ、理論的で多面的な思考が展開されにくくなりがちである。</p> <p>少人数であるため、話し合いの場も少なくなりがちで、話し合いが深まらなかったり、表現力が弱くなったりしがちである。</p> <p>生活環境が概して狭く、生活パターンも単調なためか、積極性に欠ける面が見られ、良い意味の競争心が乏しくなりがちである。</p> <p>複式学級は、担任教諭の負担も大きなものとなります。これに加えて、他校との交流学习を恒常的に持つことは、さらに負担を強いることとなります。</p> <p>また、複式学級に在籍する子どもの保護者から、一日も早く複式学級の解消を求める声が市教育委員会に届いています。</p>
18	<p>複式学級を解消することが、本当に学び合いを高めることにつながるのか？</p>	1件	<p>同上</p>
19	<p>勝手に小規模校の課題を決めつけている、学校現場を無視した計画である。単に数合せでしかない。なぜ35人がいいのか、数についてももっと真剣に考えるべき。子どもたちのことをもっと考え、栗原市の子どもたちに合った基準を考えるべき。</p> <p>P T Aは何も聞かれていない。はじめから話し合いを持ち、一から計画を練りなおすべき。P T A・地域の人々ともっと話し合ってから計画すべきである。勝手に進めるのはやめてほしい。</p>	2件	<p>適正規模を具体的に検討した結果、ある程度の集団によるダイナミックな活動や、多様な学習活動の展開は、小規模な学校では実施が困難な場合があります。子どもたちが多様な人間関係を築き社会性を身につけたり、多様な教育活動による効果的な学習を行ったり、集団の相互作用による思考力の育成を図るためには、ある程度の学校規模を確保する必要があると考えます。</p> <p>栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。従いまして、この計画決定が即実施ということではありません。計画を決定した後、個別に地域の皆様方に、教育委員会としての基本的な考え方をご理解いただくとともに、さらに十分な時間をかけて具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行していくものです。このことから、計画の決定が、即実施ではないということをご理解下さい。</p>
20	<p>統合についての良い点・悪い点を詳細に調べ、それを公表し、判断の参考とさせてほしい。</p>	1件	<p>学校教育環境検討委員会の中間報告等に一部お示ししておりますが、今後予定している個別の地域ごとの話し合いの場でお示しするように努力してまいります。</p>

21	<p>「切磋琢磨し合いながら…」 「教育効果を高めていく…」 「教育の質を維持向上するために…」 という表現は、一見良いことのように見える。しかし、その中身が問題である。直接言及されていないが、この表現の先は「競争原理」「市場原理」にしっかりつながっている。競争、テスト、有名大学進学、グローバル化に対応、という今日の風潮に対応しようとしているのかもしれないが、それで本当に「真の学力」がつくのか？</p> <p>教育改革を進める場合、次の2点を大前提として進めるべきだと考える。①「小・中学校の教育は地域に根ざし、地域に開かれ、地域に支えられてこそ豊かなものとして展開する。」②「子どもたちが競争しなくとも『自ら学ぶ力』をはぐくむ『学びの学校づくり』を子どもたちと教職員を初め、関係する様々な当事者が協力・協働して作り上げる。」</p> <p>「栗原市立学校再編計画」の基本的な考え方の全面的な再考を要求する。</p>	1件	<p>適正規模を具体的に検討した結果、ある程度の集団によるダイナミックな活動や、多様な学習活動の展開は、小規模な学校では実施が困難な場合があります。子どもたちが多様な人間関係を築き社会性を身につけたり、多様な教育活動による効果的な学習を行ったり、集団の相互作用による思考力の育成を図るためには、ある程度の学校規模を確保する必要があると考えます。</p>
----	--	----	--

2 「栗原市立学校再編計画」の構成と期間

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
22	<p>「合意形成」を図りながら進めるというが、どういう手続、手段を経て最終的に判断されるのか、その基準が明確でないことは納得できない。何よりも市教委の哲学が見えてこないことが残念である。</p> <p>統合した場合、元の単独学校に戻ることはないと思うので、十分に検討する時間をとって市民との話し合いを持ち、将来の町づくりにつながる、納得のいく形で進めていただくよう切に望む。</p>	2件	<p>栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。従いまして、この計画決定が即実施ということではありません。計画を決定した後、個別に地域の皆様方に、教育委員会としての基本的な考え方をご理解いただくとともに、さらに十分な時間をかけて具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行していくものです。このことから、計画の決定が、即実施ではないということをご理解下さい。</p> <p>栗原市のそれぞれの学校の現状を、市民の皆様にご理解し考えていただきながら、よりよい共生社会を実現していきたいと考えています。</p>
23	<p>なぜ統廃合を急ぐのか。栗原の地でどっしりと腰をすえて、今後いかに生き生きとした栗原を作るか、学校の役割をじっくり模索することこそ賢い教育委員会として評価されると思う。方針を変えることを強く要望する。</p>	1件	同 上
24	<p>市民説明会への参加者があまりにも少ない状況で、2月25日に市教育委員会を開き決定するのはひどすぎる。大多数の意見を聞くため、統廃合の対象になっている全学区や全PTA単位で説明会を開いてほしい。</p>	1件	同 上
25	<p>市民憲章は、全国から意見を募集し、時間をかけて見事に作り上げた。「学校再編計画（案）」も、市民が大いに議論しあって、老若男女の知恵を出し合い創意工夫し、祖先、先祖代々の培ってきた栗原を生き返らせよう。</p>	1件	<p>同 上</p> <p>市民憲章制定以上に各地域の話し合いを進め、合意形成に努めてまいります。</p>

26	<p>栗原市としての「教育に対する理念」が重要ではないか。たたき台なくして意見の集約はない。その意味で、今回の再編計画は必要であったと思う。住民から様々な批判が出るのは当然のことであり、そのような市民が多いほど、市民は本気で考えているということだと思ふ。批判があればあるほど喜ばしいことだと考える。</p> <p>ここからは「地元主導」で進めていくべきではないか。みんなが真剣に考え、話し合う場を作っていくことが大切なのではないか。</p>	1件	<p>ご指摘のとおりと考えます。</p> <p>栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。従いまして、この計画決定が即実施ということではありません。計画を決定した後、個別に地域の皆様方に、教育委員会としての基本的な考え方をご理解いただくとともに、さらに十分な時間をかけて具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行していくものです。このことから、計画の決定が、即実施ではないということをご理解下さい。</p> <p>栗原市のそれぞれの学校の現状を、市民の皆様様に理解し考えていただきながら、よりよい共生社会を実現していきたいと考えています。</p>
27	<p>検討委員会の役目は既に終わっている。また、残念ながら、検討の基本に据えた3つの視点から「再編計画」が策定されたと理解する人は少ないだろう。今後は、机上の計算では推し測ることのできない「教育」の部分について真剣に検討していく必要がある。現場の教員や保護者なども参画する形の委員会を早急に立ち上げるのがよいのではないか。</p>	1件	<p>今後予定している個別の地域での話し合いの結果として、「地域学校再編検討委員会(仮称)」を設置して検討することについても考慮してまいります。</p>

3 栗原市立学校の適正規模の基準

No	ご意見・ご提言の内容(要旨)	件数	栗原市教育委員会の考え方
28	<p>適正規模の根拠は何か。その適正規模がいいという事例はあるのか。</p>	1件	<p>児童生徒同士の多様な人間関係をはぐくむ上で、小中学校ともに学年で複数学級が必要、さらに教科担任制となる中学校では、全ての教科において専門の教科担任の配置が可能となるよう、全体で9学級以上必要であるという考え方です。</p> <p>現状での良い点、課題などを、学校教育環境検討委員会の委員や意見を伺った教育界の方々の経験に基づき集約した考え方で、適正規模が良いという事例を持ち合わせているものではありません。</p>
29	<p>少子化に進んでいる現在、35人1学級にこだわる必要はないと思う。35人→30人→25人→20人にしても良いのではないか。1学級でも良い。</p>	1件	<p>学級編制については、ご承知のとおり、国の現行制度は40人を標準とする学級編制です。現行40人学級の中で当面は35人学級を実現させ、国の制度改正等を見極めながら、将来は30人学級も視野に入れていきたいという考え方があります。なお、「35人を標準とする学級編制」とは、すべての学級を35人で編制することではありません。1学年の人数が36人になると、18人で2学級編制することになります。学級編制の標準を35人とすることで、かなりの学級が20人～30人程度の学級編制になると見込んでおります。</p> <p>「1学級でも良い」とする考え方について教育委員会は、同学年複数学級の編制を可能にすることによって、多様な人間関係のもとで学力はもちろんのこと、人間性、社会性がはぐくまれていくものと考えています。</p>

30	<p>志波姫地区説明会で教育長は、「学級人数は国（文科省）の基準がある。教員定数も決まっている」と話されたが、文科省の基準は、東京・大阪等都市部はそうだろうが、田舎・過疎の地域には当てはまらない基準である。その市町村に合わせて、例えば、30人学級を実施しているところもある。栗原は、せめて25人学級で実施する、それこそ個々の児童・生徒のことを思っている「栗原教育」を実践できないものか？</p>	1件	<p>学級編制については、ご承知のとおり、国の現行制度は40人を標準とする学級編制です。現行40人学級の中で当面は35人学級を実現させ、国の制度改正等を見極めながら、将来は30人学級も視野に入れていきたいという考えであります。なお、「35人を標準とする学級編制」とは、すべての学級を35人で編制するというものではありません。1学年の人数が36人になると、18人で2学級編制ということになります。学級編制の標準を35人とするので、かなりの学級が20人～30人程度の学級編制になると見込んでおります。</p>
31	<p>文部科学省のいう「12学級以上18学級以下」は50年ほど前から変わっていない。文科省自身も「今まで示してきた基本的枠組みを改めて見直す…」とし、昨年より新たに「新教育システム開発プログラム」で学校規模の適正化を研究、とし現在、見直し作業の真っ最中にある。国の方針としている複数学級は世界的に見ると非常識なものである。「12学級以上18学級以下」、40人学級、35人学級とも教育的根拠があるわけではない。全国的にすでに30人学級への流れができつつあり、栗原市でも30人学級にするよう要望する。同時に市長がローカルマニフェストで示した低学年20人学級の実現も要望する。30人学級にする途中の段階として35人学級にすることには異論はない。</p>	1件	同上
32	<p>国の40人標準を宮城県が35人に緩和していることは評価する。しかし、世の中の動きが30人学級を目指し、現に一部導入している事例もある。また検討委員会答申では、小規模ならではのメリットも認めている。このことから、35人は「標準」になるかもしれないが「最適」な数字ではないと考える。栗原市においても、現状では様々な事情から「35人標準」としなければならないかもしれないが、将来目標としての学級編制規模の考え方（説明会質疑では30人標準を目指す旨回答している。）を明記すべきでないか。</p> <p>教育委員会が考える「平成25年度」という実施時期について、現在の計画案では全般に渡って「平成25年度実施が前提」という印象を受ける。合意形成が必要なのはもちろんだが、「『平成25年度』は最終期限であり、可能な限り前倒し」という実施時期に対する基本的な考えを計画に明記すべきである。また、説明会での質疑応答で回答はいただいたが、「市内一斉実施」ではなく「合意形成が図られた学校から順次実施」という考えも明記すべき。</p>	1件	<p>同上</p> <p>35人を標準とする学級編制については、平成25年度以前でも、学校再編が実施に移行する時期から実施してまいりますし、合意形成が図られた学校から順次実施してまいります。</p>

33	<p>小学校の学級編制は、1, 2年生は30人程度がいいと思う。</p> <p>幼稚園の学級規模を3歳児20人, 4, 5歳児30人とするならば、先生の人数は1学級に複数かゆとりある教育をできると思う。</p>	1件	<p>学級編制については、ご承知のとおり、国の現行制度は40人標準学級編制です。検討委員会の中では30人程度がよいという意見もありましたが、現行40人学級の中で当面は35人学級を実現させ、国の制度改正等を見極めながら、将来は30人学級も視野に入れていきたいという考え方です。また、学級編制の標準を35人とする事で、実質的には、かなりの学級が20人～30人程度の学級編制になると見込んでおります。</p> <p>幼稚園の教員配置については、ご意見として承り、今後の施策展開の参考とさせていただきます。</p>
34	<p>「平成25年度から小中全学年を35人を標準とする学級編制を実施する。」とあるが、私は30人学級の実施を求める。文科省の調査でも、少人数学級を実施した学校は、総じて児童生徒の学力が向上した、授業でつまずく児童生徒が減ったと言われている。学力ばかりではなく、先生や子どもにとっても、お互いに接する時間が増えコミュニケーションがより図られ、それによる効果は大変大きいものと思う。</p> <p>今回の学校再編は、財政的理由で行うのではないと説明があったが、国の財務制度等審議会において、小中学校の統廃合が経費削減効果があることを強調し、これを加速させるということを出したと聞き、今回のことは全く無関係であるとは思えない。財政負担を考えると、良いと分かっているにもかかわらず実行できないということは理解できるが、真に「子どもたちのためによりよい教育環境を目指して」いくのであれば、栗原市独自の「子育て税」導入等、解決に向けての新たな発想・施策を考える余地はないのか?「学府くりはら」を本気で実現しようとするなら、それぐらいの改革を行わずには実現不可能と考える。</p>	1件	<p>学級編制については、ご承知のとおり、国の現行制度は40人標準学級編制です。検討委員会の中では30人程度がよいという意見もありましたが、現行40人学級の中で当面は35人学級を実現させ、国の制度改正等を見極めながら、将来は30人学級も視野に入れていきたいという考え方です。また、学級編制の標準を35人とする事で、実質的には、かなりの学級が20人～30人程度の学級編制になると見込んでおります。</p> <p>また、行政運営においてコスト意識を持つことは重要なことだと認識していますが、今回の学校再編計画は第一義的には子どもたちの教育環境の整備・充実が目的であり、経費節減のみを指向しているものではないと考えています。なお、教育環境の充実のために必要な財源は、財政当局との協議のもとに確保していく覚悟を持っており、新たな税負担を伴わない努力をしていくことも、行政運営に求められているものと認識しています。</p>
35	<p>一昨年、栗原市議会で1学級30～35人の少人数学級を求める請願書が満場一致で採択された。佐藤勇市長のマニフェストでは低学年は20人学級にすると約束している。今回の再編計画(案)では、統廃合する時点で35人学級を実施するといっている。統廃合を認めて実施する年度だから6年後、12年後の話である。全然進歩がない。待たずに来年からは是非実施してほしい。</p> <p>この提案は、栗原市の過去、現状、未来を展望した計画ではない。小規模校を統廃合すれば未来が開けるかの幻想に落ち込んでいる。栗原の教育を支えてきた小規模校の過去の業績を少しも評価していない。栗原の教育は栗原の教育でいい。人口の多い都市部と合わせなくていい。今の小規模校を継続してほしい。学校教育は地域に育てられてきており、地域なくして学校は育たない。過疎になって子どもが減ったから学校を統合して35人学級を作る、そこが理解できない。</p>	2件	<p>35人を標準とする学級編制については、平成25年度以前でも、学校再編が実施に移行する時期から実施することを考えています。</p> <p>来年度からの実施については、財源措置、人材確保の観点から非常に難しいものと考えますが、早い時期からの実施について協議してまいります。</p> <p>適正規模を具体的に検討した結果、ある程度の集団によるダイナミックな活動や、多様な学習活動の展開は、小規模な学校では実施が困難な場合があります。子どもたちが多様な人間関係を築き社会性を身につけたり、多様な教育活動による効果的な学習を行ったり、集団の相互作用による思考力の育成を図るためには、ある程度の学校規模を確保する必要があると考えます。</p>

36	<p>「小学校各学年2学級以上、1クラス35人」「中学校各学年3学級以上」が生徒の豊かな人間関係の構築に寄与し、学級内での学び合いを高めるのに必要か。また、「クラス替え可能な複数学級」の存在が良いかを論じる前に、もっと大切な適正規模が軽視、無視されていることを論じたい。</p> <p>廃校になった学校(分校)には、児童数0となった所もあり、耕英を除いて10人以下となった地区は統合もやむを得まいが、児童の通学適正距離は自宅より2～3km以内に学校があるのが望ましく、今以上の廃校は許されない。</p>	1件	<p>ご指摘のように、児童にとって自宅から小学校までの通学距離が2～3km以内であることが理想であることは理解できますが、小学校の配置をご意見のとおり実施すると、複式学級の編制を余儀なくされる学校、学年が相当数になることが想定されます。</p> <p>今回の学校再編の考え方は、適正規模によるより望ましい教育環境を構築することで、学力はもちろんのこと、人間性、社会性がはぐくまれていくものと考えています。小学校区の違いによって教育環境に差異が生じることは好ましくないと考えます。</p>
37	<p>学校は何百人という大規模校よりむしろ小規模校の方が良い。35人標準2学級以上が適正と考える者は、例えば二十四の瞳の12人のクラス等は否定するのか。</p> <p>幼稚園から中学校までスクールバスで通い、土・日曜、休日はスクールバスもない故、校庭で集団で遊ぶこともできない。夏休み中も、学校のプールで泳ぐには親がマイカーで連れて行くしかない。そういう子どもは気の毒だ。</p>	1件	<p>小規模校の現状を否定しているものではありません。学校再編の基本的な考え方の一つとして、多様な人間関係の中で児童生徒の成長を図っていくことが大切であると考えています。また、再編後においても、少人数指導やTT(ティーム・ティーチング)などにより、小規模校の良さを生かした教育活動を行うことが可能であると考えています。</p> <p>引き続き、地域の皆様との日常的な交流が可能になるように検討を進めてまいります。</p>
38	<p>クラス替えができないことによる問題も克服の方法はいろいろあり、クラス替えができないという理由だけで、地域から学校を引き剥がすことがあってはならない。確かに、複式学級は避けられたら避けたほうがいい。しかし、「複式学級を避けたいために統廃合を」という前に、40人学級を前提にした現在の複式学級の規模を35人、30人(低学年は20人)を前提にしたものに改善するよう要求する。(当然、市の持ち出しは増える。)まず、100人程度を一定規模の(最適な)学校として位置づけること。そして、それよりかなり少ない学校(特に、基準を改善しても複式学級が避けられない学校)でも、教育改革を進める大前提の「地域に根ざし、地域に開かれ、地域に支えられる学校」にてらし、どうするのかは、地域(保護者、教職員、学校関係者、地域住民も含めて)との議論・合意形成によって決定していくべき。</p>	1件	<p>栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。従いまして、この計画決定が即実施ということではありません。計画を決定した後、個別に地域の皆様方に、教育委員会としての基本的な考え方をご理解いただくとともに、さらに十分な時間をかけて具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行していくものです。このことから、計画の決定が、即実施ではないということをご理解下さい。</p>
39	<p>これまでも市内、県内、そして全国に小さな学校でも十分に質の高い教育をしてきている学校はたくさんある。教師の教育における守備範囲と、校長等の監督責任者のきちんとした責任のとれる範囲が実は100人程度の裏づけともなっている。「100人ぐらいが子どもたちの顔をすべて覚え、地域にもしっかりと支えられた最適な学校規模では」というのが現場の教師の実感ではないか(統廃合の是非とともに、このことも教職員対象のアンケートを取るよう要求する。)検討委員会の議事録も見ると、学校長からのヒアリングでも報告書での記述ほど小さい学校のデメリットは感じられず、むしろ小さい学校におおむね良好な評価をしていると感じられた。</p>	1件	<p>アンケート実施の提案については、今後、教職員対象のアンケートを実施し、地域での話し合いで活用してまいります。</p> <p>検討委員会でのヒアリングを踏まえ、学習面での少人数指導と学級規模としての子どもたちの人間関係づくりは、分けて整理した上で考えてきております。小規模校のよさである、一人ひとりの個性や特性に合わせてきめ細かな指導ができるという陰には、教科書に書かれている内容や、いま学んでいることについてとらえ方の違う意見が少なく、様々な人の考え方を取り入れて、自分の思いや考えを深めていくことができにくい状況があります。</p> <p>また、様々な人間と出会い、時には自分と異なる個性の人間と出会って、葛藤しながらもたくましく成長していく場が少なくなりがちであると考えています。子どもたちが多様な人間関係を築き社会性や協調性を身につけたり、多様な教育活動による効果的な学習を行ったり、集団の相互作用による思考力の育成を図るためには、ある程度の学校規模を確保する必要があると考えています。</p>

40	花山や高清水のように1幼1小1中のところはいじめなど起きない。規模の大きいところほどいじめは起きる。多人数の方が良いなど、どうしてそう言えるのか。	1件	いじめの問題と学校規模との因果関係は単純ではありません。学校規模が大きくなれば、いじめが発生する確率は高くなると思われませんが、小規模校では、いじめは発生しにくい反面、発生した際の対処は大規模校より難しくなると思われまます。 様々な人間と出会い、時には自分と異なる個性の人間と出会って、葛藤しながらもたくましく成長していくことが大切です。ご指摘の課題につきましては、機能する学校組織によって、これまで以上に生徒指導は不可欠と考えております。
41	今回の計画案に教職員の増減について何ら触れていないのも非常に気になる。県教委の管轄ではあるが、だからと言ってこんな重大な問題で、子どもの数だけを論じ教職員の数をうやむやにしておいて良いのか？市教委なりに想定計算できるものをフェアに示すべき。	1件	学校再編計画の参考資料として、想定される学級数を前提とした、教職員数を試算し示してまいります。 なお、統合再編に伴ういろいろな事態に対処するための教職員の加配についても、県教育委員会に対して要望してまいります。
42	他の地区ではとっくに3年保育に取り組んでいる。なぜ市の中心である築館はいつも遅れているのか。小学校・幼稚園とも中心部にのみ児童館があるのは不公平だと思う。本気で子どもたちがよりよい教育環境の中で生活できるようにするには、もっと親の意見も聞いてほしい。	1件	市立幼稚園は、旧町村で設置した状態で栗原市教育委員会が引き継いでいます。そのため、金成・志波姫・花山地区を除く7地区では、旧町村のそれぞれの事情によって1年保育または2年保育となっています。今回の再編計画で示しているとおり、できるだけ早い時期に幼稚園の保育年数を3年に統一できるように進めてまいります。

4 適正配置

No	ご意見・ご提言の内容(要旨)	件数	栗原市教育委員会の考え方
43	集団登校するのも中心地区居住の一部生徒のみとなる。集団登下校は交通安全や変質者・ヤク中等の精神異常者より身を守る為だけでなく、一人っ子等兄弟姉妹の少ない今、下級生は上級生を姉姉の如く慕い、上級生は下級生の面倒を見る、交通指導のボランティア老人と挨拶をかわす等の好ましい人間関係育成にも役立ってきた。	1件	集団登校についても現在は、自宅から通学途上で集団を形成するまでの距離、時間を要する状況があります。また、集団下校についても、学年による下校時間の違いや放課後の様々な活動によって一様でできなくなっている状況が一部にあります。このような状況から、児童生徒の通学上の安全確保についてもさらに検討を加えてまいります。
44	中学の部活に関しては、ある程度の人数がある方が好ましい。例えば花山中の場合、サッカーをしたいのに部活がないということはある。そういう生徒は一迫中への編入を認めればよい。全員を一迫中にとする必要はない。 また、スクールバス利用者は部活をするな、しても補欠に甘んじよは、計画でいう教育の機会均等、公平性の確保に反していると思うが、如何か。	1件	学校教育法等の規定に基づき、就学すべき学校を指定することになっていますが、栗原市立学校の通学及び通園区域に関する規則に基づき、指定校を変更している現状があります。このような現状を学校再編によって解消していくことが可能になると考えています。 また、スクールバスの運行については、児童会・生徒会や部活動などの活動時間が確保できるよう配慮することを前提に検討してまいります。決して、「スクールバス利用者は部活動をするなどが補欠に甘んじよ」などという考え方はありません。
45	通学路の安全対策とは、スクールバス運行や路線バス運行、送迎車交通路の変化に伴うその周辺や学校周辺の安全対策のことだと思うが、スクールバス内の安全、安心対策はどうか？車中で想定される諸問題についても慎重に検討したのか？	1件	スクールバス内での問題提起については、これまで心配される状況では添乗員を配してきており、意見を参考にして最善の策を考えていきます。

46	<p>通学支援について、今後、検討整理に取り組むものと思うが、最近の問題点を述べてみる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 通学途上の犯罪増発に伴い、父兄等による防犯パトロールの実施 2. 遠距離通学 3. 不便な環境で、住みたいとする魅力の欠如 4. 都会に憧れ田舎がなくなる、過疎化が進む 5. 高齢化の増加と、少子化を増長している <p>具体的な支援策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学生は、児童（生徒）を各戸口まで送迎する。密集地については、父兄の目の届く場所に集合させることができる。 2. 中学生は、現状方法でよい <p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校に、子供を安心して預けられる 2. 犯罪に巻き込まれない 3. 魅力ある住みよい環境を生きがいある風土の構築 4. 少子化の解消 <p>以上について、具体的な支援策を積極的に推進していただきたい。</p>	1件	<p>各戸口までの送迎については難しい面がありますが、ご要望内容を検討させていただきます。</p> <p>また、再編後においては、全小学校に放課後児童クラブを設置することも考慮しております。このことにより、通学途上の安全性はより万全なものになると考えています。</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえて、地域の皆様と具体的に話し合いを進めていきます。</p>
47	<p>栗駒小の児童が岩ヶ崎小に通学することになった時に、現在のバス路線を利用するのは、バス停まで距離がある児童は大変不便になる。現在ある公共交通機関を利用して通学する条件での統合では、栗駒小の児童・家庭の負担が大ききように思う。以下の点に配慮したスクールバスの運行を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各家庭が不便を感じないような、きめ細かい路線運行を。 ②1年生の児童も利用するため、運転手のほかに安全を確保するための職員の配置を。 ③夏季休業時は、プール利用に合わせた運行を。 ④耕英地区の児童にも配慮した運行を。 	1件	<p>ご意見として承り、今後予定している個別の地域を対象とした話し合いの中で、できるだけご要望にお応えできるよう協議してまいります。</p>

5 適正化を実現する方法

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
48	<p>「反対しても進められる計画では」という意見を地域で聞き、私のこの意見だけではどうにもならないのではと、とても残念に感じたが、案の状態で市民の声は聞き入れられずに実行にうつされるのか？</p>	1件	<p>栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。従いまして、この計画決定が即実施ということではありません。計画を決定した後、個別に地域の皆様方に、教育委員会としての基本的な考え方をご理解いただくとともに、さらに十分な時間をかけて具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行していくものです。従いまして、市民の声を聞き入れずに実行に移すことはありません。</p>

6 特色ある学校づくり

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
49	<p>小中一貫校の創設理由とメリットを説明してほしい。もし小中一貫がメリットが大なら全ての地区でそうすべき、志波姫、金成の二地区にするのは何故か。</p>	1件	<p>小中一貫校は、小中学校の9年間を一貫した弾力的な教育課程を編成して、これまで以上に児童生徒の発達に合わせた教育を行うことが可能になります。現行の6・3制を、例えば、児童生徒の発達に合わせて4・3・2制を導入し、中学年部（小5～中1）から教科担任制を取り入れることによって、学力向上につなげていくことが可能になると考えています。さらに最近顕在化してきている、小学生から中学1年生になったとたん学習や生活の変化になじみにくくなる「中1ギャップ」の解消も期待できます。</p> <p>栗原市の場合は、今回の再編で中学校の教科指導の充実という観点からすべての教科において専門の教科担任の配置が可能となる学校規模の設定をしましたので、小学校5・6年生の学級担任の活用も含めて考えると、小中学校で安定的に各学年2学級以上を確保できる場合に、小中一貫校の創設を考えています。</p> <p>今回の計画は、将来の学校づくりのモデル校的な性格を持たせており、具体的な取り組みを行いその成果を検証しながら、特に中学校における教科担任の確実な配置を目指し、必要に応じて他地域での創設も検討してまいります。</p>
50	<p>志津川の先行例でどんな影響が出ているかわからないが、市内の高校がますます減らされようとしている中、あえて中高一貫校を創設する意義、メリットが不明である。</p>	1件	<p>連携型中高一貫教育の先例によると、連携型入試は、調査書と面接、口頭試問という中学校での学習の習得程度が問われる試験が行われます。さらに連携型入試で合格した生徒に対し、「つなぎ教材」とする課題を与え、中学から高校への学習の移行を滑らかにする役割を持たせています。連携型の場合は、他の高校への進学を選択することも可能です。</p> <p>メリットは、中高の学習内容の重複や不連続がなくなり6年間の体系的な学習ができ、さらに、受験時期に学習や部活動などが中断されることなく続けることができます。</p> <p>現在、市内に設置されている県立高校は、5校で総定員760人です。一方、市立中学校卒業生が市内県立高校へ進学した人数は、平成18年度523人（68.4%）、平成19年度571人（73.5%）になっています。現在700人台半ばの中学生が500人程度まで減少していくことから、将来は中学校卒業生全員が市内の高校に進学しても定員に達せず、県立高校再編の中で、場合によっては市内の県立高校2校論も浮上してくる可能性があると考えました。</p> <p>その場合、広大な市域の栗原市では、山間部が多い市北西部生徒の高校への通学距離が長くなり、また、一関や古川の中高一貫校への入学により、市内県立高校への進学率が一層低下することが考えられます。市北西部地域に中高一貫校を創設することは市立中学校の学力向上のけん引役として、市外への流出防止に、かつ長くなる通学距離緩和策を含め有効と考えたものです。</p>

51	<p>小中一貫校，中高一貫校を想定しているようだが，交通の便が完備され市内のどこからでも通学できる環境になれば，一貫教育の目的は達成しないのではないか。交通環境が整わなければ，通学区域内か通学手段が確保できる者にしか門戸を開かないのではないか。環境整備が整わなければ設置しないという，別の選択も考慮してはいかかか。</p>	1件	<p>現在は，小中一貫校・中高一貫校ともに，学校教育法に基づく通学区域を設定しての創設を考えています。</p>
52	<p>義務教育で市教委管轄の中学と非義務教育で県教委管轄の高校を一本化するの，現行学校教育法に反するもので，創設の可否は古川黎明に聞いてからでも遅くない。なぜ岩ヶ崎一校だけなのか。理想は各地区に普通校1校をだが望むべくもないか。</p>	1件	<p>中高一貫校は，中学校3年と高校3年の6年間を通じて，計画的にしかも継続的な教育を行うことを目指しています。既に平成10年に「学校教育法の一部を改正する法律」が施行されており，法的にも創設は可能になっています。</p> <p>中高一貫校の創設については，今後，高校の設置者である宮城県と協議を進めていくこととなります。</p> <p>市内に設置されている県立高校は，5校で総定員760人です。一方，市立中学校卒業生が市内県立高校へ進学した人数は，平成18年度523人（68.4%），平成19年度571人（73.5%）になっています。現在700人台半ばの中学生が，500人程度まで減少していくことから，将来は中学校卒業生全員が市内の高校に進学しても定員に達せず，県立高校再編の中で，場合によっては市内の県立高校2校論も浮上してくる可能性があると考えました。</p> <p>その場合，広大な市域の栗原市では，山間部が多い市北西部生徒の高校への通学距離が長くなり，また，一関や古川の中高一貫校への入学により，市内県立高校への進学率が一層低下することが考えられます。市北西部地域に中高一貫校を創設することは市立中学校の学力向上のけん引役として，市外への流出防止に，かつ長くなる通学距離緩和策を含め有効と考えたものです。</p>
53	<p>栗原市内小中高等学校全体の「特色ある学校づくり」とはどうあるべきか，どう進めていこうとしているのか，この計画（案）からは読み取ることができない。小中一貫校・中高一貫校以外の学校をどう創っていくのかを同時に考え進め，それを提示することが今回の再編計画の最も重要なところの一つだと思う。</p> <p>現在は，校長先生の裁量により学校経営が成されており，活発な指導を行っている学校とそうではない学校が存在しているように思う。市内において「教育格差」が生じないことを望む。</p>	1件	<p>今回の計画は，今後の学校づくりのモデル校的な性格を持たせており，具体的な取り組みを行いその成果を検証しながら，特に中学校における教科担任の確実な配置を目指し，必要に応じて他地域での創設も検討してまいります。</p> <p>なお，現在それぞれの学校が取り組んでいる特色ある学校づくりについても引き続き継続していく考え方であり，ご指摘のようなことがないように指導してまいります。</p>

栗原市立学校再編計画 実施計画

1 検討の手順

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
	ご意見・ご提言はありませんでした		

2 「前期計画」

小学校

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
54	<p>私は、小学校のころ分校だったので人数が少なく、中学にあがって急に同級生が多くなり、初めはなじめずにいた。将来子どもが通う小学校も、私が生活していたころと同じような感じと想像している。幼稚園も中学校も1校しかないので、小学校もはじめから1つの方がいいとずっと思っていた。小学校の合併は早く行った方が良くと思う。</p>	1件	<p>教育委員会として、ご指摘いただいたような懸念を持ってまいりました。できるだけ早い時期に、地域の皆様からご理解をいただき全体の合意を得られるように努めてまいります。</p>
55	<p>花山小学校は各学年の児童数が10名前後であり、早晚複式学級の編制が想定されるのに、なぜ前期計画で見直しされないのか理解できない。</p> <p>学区再編で金田小学校と統合することを次善の策として検討されたい。</p>	1件	<p>栗原市総合計画の中で、合併前の旧町村が、それぞれの個性を保ち、各地区の生活基盤の向上を図り、相互につながる生活拠点形成を目指していることから、小学校は、旧町村ごとに配置する計画といたしました。花山小学校においては、素晴らしい自然環境を生かし、指定する通学区域以外の市内外から一定の児童を受け入れる「特認校制度」を導入し、一定の規模を確保して存続する可能性も探ってまいります。</p> <p>しかし、今後の出生数や他からの受入状況などが伸びず、花山地区の保護者が望む場合、後期計画で一迫地区への統合も考えてまいります。</p> <p>花山小学校は現状のまま存続させ、一迫地区は4校の統合で案を示しています。ご提案いただいたことについては、今後の話し合いの中で、花山、金田の両地区で具体的に話をお聞きしてまいります。長期的には適正規模の基準を満たさないことから、一迫地区への統合も含めて関係市民と話し合いを進めてまいります。</p>
56	<p>「平成25年度までの学級編制において、複式学級の編制が想定される16校に対して、当面6学級以上を確保して複式学級を解消」との記述があるが、説明会質疑応答では、再編実施までは複式学級が発生する旨の回答があり、矛盾している。</p> <p>計画案で「当面6学級以上を確保して複式学級を解消」と記載しているが、「当面」とはいつごろまでのことで、具体的方策はどのように考えているのか。</p>	1件	<p>前期計画において、できるだけ早い時期に取り組むべき再編の対象を示しています。この場合に、適正規模の基準で示しているのは小学校において各学年2学級以上としていますが、緊急的に、複式学級は解消していくという考え方を示しているものです。この対象校と隣接する学校との統合または学区再編によって複式学級の解消を図ろうと考えています。</p> <p>「当面」とは、前期計画のことを表現しています。</p>
57	<p>あまりにも唐突な提案ではないか。計画が出てから、どうですかではなく、今後どのようにしていけばいいのかを問いつつ住民説明会を経て計画案を作成していく手順はとれなかったのか。理解の得られる地区から実施するというのでは、計画の妥当性が問われる。</p>	1件	<p>栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。従いまして、この計画決定が即実施ということではありません。計画を決定した後、個別に地域の皆様方に、教育委員会としての基本的な考え方をご理解いただくとともに、さらに十分な時間をかけて具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行していくものです。このことから、計画の決定が、実施計画ではないということをご理解下さい。効率的に話し合いを進めるためには、計画案を示すことが必要と考えたものです。</p>

58	<p>複式学級の編制が想定される16校が統合されるのではなく、大きな規模での学区編制を行い、20人規模のクラス編制を考えた方が良いのではないか。小さい学校の生徒だけが対象になるのではなく、校舎の年数とか地域、環境を見て、子どもにとっての教育に何が大切なのか、よく見極めて市民みんなで考えていくべきことだと思う。</p>	1件	<p>学校が地域コミュニティの核としての役割を發揮してきたこと、その重要性は認識しております。また、学校が地域の皆様に支えられてきたことも知っています。しかし、栗原の将来を担う子どもたちの教育環境を改善することが、最も重要であるとの認識で、適正規模を確保する学校再編計画を策定していくものでございます。</p> <p>地域自治及び地域自主防災などの観点から、学校に対して地域の皆様が考え支援していくことを否定しているものではありません。</p>
----	---	----	--

中学校

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
59	<p>現在の高清水中学校敷地は伊達家重臣石母田家の城趾にあり、町の歩みと歴史と教育が一体となって人間の基礎教育の場所である。少子化が問題になっている現状では、中学生を取り込んだ地域コミュニティづくりが少子社会の地域づくりとして望ましいと考える。</p> <p>小中一貫校を目標に時間をかけて進めてほしい。</p>	1件	<p>現在の高清水中学校の通学区域での将来推計を見ると、今回設定をした中学校全体で9学級を確保できる見込みが立たなかったため、将来的には、再編が必要になってくるものと検討してまいりました。</p> <p>高清水における小中一貫校は、現在の基準ではそのメリットが發揮できませんが、今後の出生数や国の制度改正など場合によっては、継続して1学年2学級を確保できる可能性もあり、今後の推移を見守る必要があると考えています。</p>
60	<p>「生徒の豊かな人間関係の構築という観点から、クラス替えが可能な各学年複数学級が必要であるという考えに基づき…」というのは誤った認識である。同じ年齢の人間関係をいくら深めても豊かな人間関係を培うことは不可能であり、いじめ、中傷の温床になる。むしろ、1学級編制で、上級生と下級生が交流しやすい環境を作ってあげるほうが、上級生は下級生をいたわってあげたり、下級生は上級生に相談したりすることがしやすくなる。したがって、学校再編計画を考えるのは別にかまわないが、「生徒の豊かな人間関係を構築する…」という理由づけはやめていただきたい。もっとしっかりした考え方を柱にしていきたい。</p>	1件	<p>学校規模の検討において、市内の小中学校で1学年1学級以下の編制（平成19年5月1日現在の通常学級）となっている小学校が30校中24校、中学校が10校中2校という現状があります。</p> <p>小学校の6年間、中学校の3年間が固定された学級編制となることでの良い点としては、濃密な人間関係が形成されていくことが考えられます。一方、課題としては、固定された人間関係の場合で、子ども同士または子どもと教師間で、人間関係が一旦こじれるとその修復が困難な場合や改善のために相当な時間と労力を費やし、学校教育活動に支障をきたすことが考えられます。</p> <p>学校教育活動においては、集団から様々な刺激、葛藤などの影響を受けて学力はもちろんのこと、人間性、社会性がはぐくまれていくものと考えています。そのためには、様々な人間と出会い、時には自分と異なる個性の人間と出会って、たくましく成長していく場が必要であると考えます。</p> <p>子どもは、誕生直後の母子の関係から、家族の関係、幼稚園、小中学校、高校や社会へとその人間関係を広げ、様々な出会いを通して、社会性を身につけ「たくましく生きる力」をはぐくんでいくものと考え、適正な規模の学校は子どもの成長にとって必要であると考えているものであります。</p>

幼稚園

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
61	教育の機会均等をいうなら、速やかに市内の保育年数を同じにすべき。	1件	市立幼稚園は、旧町村で設置した状態で栗原市教育委員会が引き継いでいます。そのため、金成・志波姫・花山地区を除く7地区では、旧町村のそれぞれの事情によって1年保育または2年保育となっています。 市立幼稚園の保育年数を速やかに統一すべきという指摘は、その通りであります。しかし、現状の施設ですぐに3年保育を実施できる状況ではなく、確実に施設整備が必要になりますので、再編計画の合意が得られれば早急に施設整備計画を立てて実施していく考えです。
62	幼児は少人数ほど保育の眼が行き届く。30人ぐらいが望ましいとは誰の発想か。	1件	幼児は少人数ほど保育の目が行き届くとの考え方も理解できますが、一方で幼児教育においては「一定の集団を形成して群れて遊ぶ」という要素が大事になると考えています。一定の集団には、幼稚園教諭などの保育者を適正に配置してきめ細かな対応をしていくことを考えています。
63	築館地区の児童の一部を志波姫に入学させるようだが、保育期間の違う児童を受け入れる小学校も大変であるし、同じ幼稚園に通って小学校を別々にされる子どももかわいそうである。	1件	再編後の小学校の通学区域と幼稚園の通園区域は、地域の皆様との話し合いにより、原則として同様にしていくことを考えています。
64	幼稚園と保育所は文科省と厚労省と管轄が違うだけでなく、その教育理念も違う。預かる年齢が違うだけで、同じようなものとするのは幼児教育に全く無知な者である。行政に携わる人も簡単に幼保一元化などといわず、もっと勉強してほしい。	1件	幼保一元化（幼児教育・保育の一元型）につきましては、現在の幼稚園と保育所を同一施設（敷地）に設置して、幼稚園児・保育所児を分け隔てなく同じ年齢の幼児で学級編制を行い、具体的には、午前は「幼稚園教育要領」に基づく教育を行い、午後は「保育所保育指針」に基づく保育を行っております。

3 「後期計画」

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
	ご意見・ご提言はありませんでした		

4 具体的な計画

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
65	スッキリした行政提案に賛成する。しかし、これから具体的問題が浮上してくると思うので、2, 3提案する。 ①県退職校長会栗原支部に提案し、これからの具体的問題を集約していただくこと。ともに協力要請を図ること。 ②市内小中学校長を対象に、今そしてこれからの少子化と学校経営の問題点を集約し整理していくこと。 ③当該学校職員から、小規模、少人数学級の学習指導上の問題点を具体的にあげていただき集約しておくこと。 ④現在の各校の通学路と、児童生徒の通学方法・通学時間を確認しておくこと。 ⑤各学校PTAに、統合についてのそれぞれの学校の問題点を集約し転記しておくこと。 また、市の少子化対策と進行の実態はどうなっており、それと統合問題とのかかわりは？	1件	賛意をいただき感謝申し上げます。 ご指摘をいただいた具体的な課題把握については、今後ともさらに想定される課題の整理などを進め、情報収集、資料提供に努めてまいります。 栗原市の少子化対策については、産業の振興、住宅施策、子育て支援など総合的な施策として積極的に取り組んでいます。しかし、一朝一夕にその効果が現れるものではありませんので、引き続き努力を重ねてまいります。現状では、市の対策を超える大波が押し寄せている現状で、急激な児童生徒の増加が見込める状況ではないことから、現在と近い将来の児童生徒の教育環境を整える必要があると考え、学校再編について地域の皆様と真剣に話し合っていきたいと考えています。

66	たとえ、1人2人でも児童生徒のいる限り耕英は廃校すべきでない。	1件	耕英分校の存続につきましては、今後耕英地区の皆様と話し合いの場をもち、協議を進めてまいります。
67	遠距離通学生を何らかの事情で帰宅させる時、スクールバスも運行されず、路線バスもないとなれば、手のあいている教師が送っていくほかない。	1件	児童生徒が何らかの事情で帰宅せざるを得ない事情は、様々なケースが想定されるため、一概に申し上げられませんが、基本的には現行と同様に家族による迎えをお願いすることになると思います。その他に、緊急の場合に利用するタクシー借り上げ料を予算化することなどが考えられます。
68	家庭訪問は、日当はおろかガソリン代も支給されない。学区域が広域になれば教師も大変である。せまい学区なら児童生徒の放課後や休日の生活にもある程度目が行き届く。	1件	現在は、家庭訪問に係る費用負担を個人に求めていることはありません。 放課後や休日の児童生徒の生活については、教職員だけではなく、保護者をはじめ家族や地域の皆様からのお力添えをいただき、地域全体で育てていく機運の醸成が必要であると認識しています。
69	金成地区からは、高校受験の際に一関方面の学校を受験する生徒も多いのが現状である。さらに、平成21年度からは一関一高が中高一貫校になるとの情報も聞こえてきている。 計画では、金成地区は平成25年度までに小中一貫校となっているが、個人的な進路選択の幅として、中学受験・高校受験の際には、現行のようにフレキシブルに対応していただけるのか？自由に受けてみたい中学も受けられるのか？	1件	現在は、宮城県教育委員会と岩手県教育委員会の両方でそれぞれの県立高校について隣接する中学校区から相互に高校の入学を認めあつ協定を結んでいます。このことによって、若柳・栗駒・金成地区に居住する者に限って、一関方面の高校に進学できるようになっています。この両県教育委員会の「県境協定」が継続される限り、高校進学の際に一関方面の高校を選択することが可能です。 小学校から中学校への入学の段階において、栗原市教育委員会は入学すべき中学校を指定することになります。ただし、指定された中学校以外を受験（私立中学校など）することも可能です。同様に小中一貫校から、他の中学校を選択することも可能です。 一関一高の中高一貫校の概要については、まだ公表されていません。新設される県立中学校の通学区域が岩手県内となり、宮城県からの中学校選択は難しいものと考えられます。高校の段階では、県境協定のもとで選択が可能になるものと見込まれます。詳細については、2月までに公表される見込みのようです。
70	富野の子は宮野に通学し、宮野は築小宮野分校とし、玉沢も築小玉沢分校とすれば良い。 鶯沢工業が廃校にされそうだが、理工系学生の不足が危惧される今、工業校を廃してはいけない。	1件	少子化が進行している中で、複式学級の子どもを持つ保護者の多くは複式学級の早期解消を望んでいます。 「本校を廃し分校を増やせ」という提案につきましては、子どもたちが学び成長していく教育環境をよりよいものにすることが学校再編の大きなねらいでありますので、分校の設置は考えておりません。 県立高校についても、今後とも設置者である宮城県と様々な角度から検討を進めてまいります。
71	どうして築館は公立幼稚園3年保育にしてくれないのか。これからの子供たちも大事ですが、現在育てている立場として、もっと早く進めてほしい。	1件	市立幼稚園の保育年数を3年に統一してまいります。しかし、築館地区のみならず、金成・志波姫・花山地区を除く7地区で現在の幼稚園施設では、すぐに実施に移すことができない状況にあり、園舎の増築などの施設整備が必要になってまいります。そのため、計画的に施設整備を進めることが必要になります。 できるだけ早い時期に実現できるように進めてまいります。

72	現在の学校・幼稚園を、ばらばらに分断して再編する必要があるのか？分かれるメリットは何か？	2件	合併により、旧町村境界が取り払われた現在、旧町村の区域を越えて通学の利便が図られる場合を想定しています。具体的には、今回の計画で小学校は旧町村ごとに原則1校となることから、他の地区への通学の方が距離が半減する地区が何カ所か想定されるためです。あくまでも、地域の意志で入園・入学する学校等を決めていただくこととなりますが、旧町以外の学校等でも統合再編後の通園・通学距離が大幅に短くなる場合に提案しています。
73	広報に載っていない具体的な内容があれば、若柳地区について教えてほしい。	1件	広報にも小中学校・幼稚園の総括表として、掲載していますが、若柳地区の小学校については、有賀・大岡・畑岡の3小学校の一部を地域形成の状況や通学距離などの関係から、学区再編とする素案としています。これに伴い、中学校及び幼稚園の通学・通園区域についても小学校と同様の再編とする素案となっています。
74	<p>①施設整備計画で新設を検討しているものは、太陽光発電やエコキュート、床暖房など環境に配慮した施設にしてほしい。初期の設備投資とその後数年ごとの光熱費とのシミュレーションで黒字になる結果が得られれば、ぜひ検討してほしい。</p> <p>②金成幼稚園で幼保一元化、通園バスを実践している中での、現在の問題点、今後の課題、改善策等を公表してほしい。</p> <p>③若柳幼稚園は幼保一元化するのか。新設するなら候補地はあるのか。私立幼稚園との共存とは、どういう形なのか。</p>	1件	<p>ご意見として承り、今後の施策展開の参考として前向きに検討させていただきます。</p> <p>立ち上がり時期において、幼保一元化に対する保護者の理解や職員の意識において、若干の混乱はありましたが、1～2ヶ月でその課題は解決されており、現在は、2年を経過し大きな問題を抱えずにスムーズに運営しています。施設規模について、行事等で使用する部屋は園児定員に見合った規模が必要であるという意見が寄せられています。</p> <p>若柳地区では、現在、保育所が本来の機能を果たしており、また、幼保一元化した場合、規模が大きすぎることとなります。したがって、3年保育の幼稚園として私立幼稚園とも協議しながら再編を進めてまいります。新設候補地、私立幼稚園との共存については、検討に入っていますが、引き続き協議検討してまいります。</p>
75	やむを得ず統合する場合は、両地区からの通学の利便性を考慮し、校舎を新設してほしい。新設した学校で、新しい歴史・文化を築き、栗原市民としての一体感を育成してほしい。	1件	<p>今後予定している、個別の地域ごとの話し合いにおいて、具体的に話し合いを進めてまいります。</p> <p>校舎の新築で解決できるのであれば検討もやぶさかではありませんが、現在の財政事情の下では難しいと思います。</p>
76	<p>学校の統合だけではなく、両地区民が「自分たちの学校」という意識を持ち、統合後の中学生を分け隔てなく見守ることができるよう、地域全体での交流も必要である。</p> <p>このままでは、高清水地区住民の新中学校への関心はかなり低下すると思う。</p>	1件	再編後の学校を核とした新しいコミュニティづくりも大切と考えます。後段のご意見のような事態にならないように、個別の地域での話し合いで十分に時間をかけて話し合っていきます。

5 推進日程

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
77	<p>合意形成後の1～2年で交流事業の実施や校名等の検討を行い、更に実施まで1年間の準備期間を置くようだが、その間にも交流事業は継続すべきであり、表にもその期間を加えるべきである。</p> <p>前期計画の学校再編の実現時期→平成25年4月1日、後期計画の学校再編の実現時期→平成31年4月1日となっているが、最終的な再編終了時期だとすれば、それぞれの前に「～」をつけるべき。</p>	1件	<p>合意形成後の、再編実施に向けた準備期間1～2年は、交流授業等の実施と校名検討などを同時に進める期間に位置づけております。合意を得られた年度から1～2年後が学校統合の年となりますので、ご理解願います。</p> <p>学校再編の実施時期については、地域での話し合いを進め合意をいただいた地域から再編を進めてまいります。ご指摘のように、わかりやすい表現に修正します。</p>
78	<p>合意形成を図る課程で実施時期を検討する際、保護者は自分の子どもを念頭においた考えを持つのが自然である。「今の学校で卒業させたい」という考えを多くの保護者が持つのは当然だが、優先させるべきは「複式学級の解消」であり、そのような意見でいたずらに実施を先延ばしすることだけは避けてほしい。</p> <p>合意形成の過程では趣旨がぶれないよう配慮すべきであり、そのためにも、合意形成がうまくいかない地区には、ある程度スキルを有するファシリテーターを配置するべきである。</p>	1件	<p>力強い賛同のご意見として承り、今後の展開の参考とさせていただきます。</p>
79	<p>2月25日の市教育委員会までに、学校再編実施にかかる経費の財源の試算を提示して議論してほしい。</p>	1件	<p>試算しながら、検討を進めてまいります。</p>

その他

No	ご意見・ご提言の内容（要旨）	件数	栗原市教育委員会の考え方
80	<p>教育の目的の一つに文化の継承があると思う。以前、富野小学校へ伺った時に神楽の話題になり、子どもの少ない学校なので、地域の方々に家族のようにあたたかく、ときに厳しくご指導いただいている、と先生方が話していた。</p> <p>富野小学校が宮野小学校と統合すれば、恐らく地域性が冷めた方向へ向かうのでは、と考えられる。</p> <p>文化継承の必要な学校の再編を考え直してほしい。</p>	1件	<p>今回公表した、栗原市立学校再編計画の素案は、学校の小規模校化が進行することが予想される状況で、このままの状態を学校を存続していいのだろうかということが、検討の出発点となっています。</p> <p>学校教育活動において、地域の文化を理解したり、ふれあう機会を持つことはとても大切なことであると考えています。再編後の学校においても、地域の皆様に引き続きお力添えをいただきながら、このような機会を継続して持てるように検討してまいりたいと考えています。</p>
81	<p>栗原市では、本年度から「一括交付金制度」を創設し、地域の自立的活動を促す政策をスタートさせている。同じタイミングでこれに水を差し、釘を差すような今回の再編計画の登場である。地域再生政策と地域崩壊政策が同時に示されたことになる。これをチグハグと言わず何と言うか。</p>	1件	<p>学校が地域コミュニティの核としての役割を發揮してきたこと、その重要性は認識しております。また、学校が地域の皆様に支えられてきたことも知っています。しかし、栗原の将来を担う子どもたちの教育環境を改善することが、最も重要であるとの認識で、適正規模を確保する学校再編計画を策定していくものであります。</p> <p>地域自治及び地域自主防災などの観点から、学校に対して地域の皆様が考え支援していくことを否定しているものではありません。</p>

82	<p>今回の栗原市立学校再編計画案は見直すべきである。学校は幼児、児童、生徒の教育の場であり、地域に密着した施設であることを基本としなければならない。</p> <p>小学校がなくなると、ますます過そを進めることになる。学校再編の前に、地域に子どもが増加する行政の政策（若者が勤められる会社、公営住宅建設等）をすべきである。</p> <p>見直し案として、①幼稚園は3年保育とする ②小学校は社会の流れ、又教育上から1クラス20人～30人規模とし、1学年1学級～2学級とする ③中学校は1クラス30人規模とし、1学年で2学級～3学級とする ④小学校については、全校児童が30人以下の場合に再編する ⑤再編する場合、地域住民の同意を得て再編する ⑥富野小学校については、地域でただ一つの公共施設であるので、存続を切に要望する。又統合する場合、宮野小学校でなく築館小学校とする。</p>	1件	<p>幼稚園は3年保育を目指しています。</p> <p>学級編制は、小中学校ともに35人を標準とすることで、かなりの学級が1学級20～30人規模での学級編制となります。また、学級数については、児童生徒同士の多様な人間関係を育むうえで、小中学校ともに学年で複数学級が必要、さらに教科担任制となる中学校では、全ての教科において専門の教科担任の配置が可能となる全体で9学級以上必要であるという考え方です。</p> <p>基本的に、複式学級を解消していきたいと考えています。</p> <p>栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。計画を決定した後、個別に地域の皆様方と具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行してまいります。</p> <p>地域での話し合いの中で、具体的に話し合いを進めてまいります。</p>
83	<p>少子・過疎化の進む中、学校教育のあり方について検討を重ねておられる教育委員会には敬意を表す。しかし、再編計画全体を通して感じることは、1)何が適正か、2)小規模校は不適正なのかという素朴な疑問である。さらに、本計画を進めることで、少子化が解消し、地域が活性化するかという本質的な問題に答えられていないことに、地域住民としては将来への不安を禁じ得ない。</p>	1件	<p>適正規模を具体的に検討した結果、ある程度の集団によるダイナミックな活動や、多様な学習活動の展開は、小規模な学校では実施が困難な場合があります。子どもたちが多様な人間関係を築き、社会性を身につけたり、多様な教育活動による効果的な学習を行ったり、集団の相互作用による思考力の育成を図るためには、ある程度の学校規模を確保する必要があると考えます。</p> <p>地域活性化については、この再編計画とは別に、栗原市総合計画の中で各種施策を講じ努力してまいります。</p>
84	<p>「体育」については、優秀な指導者に巡り会えば、団体としては非常に高い段階にまで到達できる。同じことが「知育」「徳育」についても言えるのか。やる気のない教師がおぞなりの義務教育を行っているのではないかという疑問が常にある。学力で言えば、全国共通テストの結果に出ている。また、徳育では、子どもの作文を読むと都市部の子どもの1～2年ほど物の見方が遅れているばかりか、極めて表面的に「善」を気取る風潮すらある。いろいろなイベントを通じて、いろいろな子どもを見ているが、地方の子どもの方が社会や自然や環境のしきたりについて知らないことが多い。現状のこのようになっていたらくな状況で、どのような学校再編をして、教育効果を上げようとしているのか。今回の再編計画は残念ながら、論理的且つ体系的な計画になっているとはいえない。</p> <p>「適正規模」という訳の分からない概念をして、濃密な人間関係を醸成する現在の小規模校を抹殺して良いものか。現在の社会的、政治的情勢の中で子どもたちがどのような状況に置かれ、それに対応する教育をどのようにしなければならぬのか。専門家が最初から諦めて仕事をしているようで、現在の教育にも「適正規模」の教育にも情熱が微塵もない。どのような「規模」であれ、現場にやる気がなければ結局同じことだ。格差が叫ばれている中、地方に居住することで、教育の「質的」な機会均等が損なわれてはならない。教育は最も重要な社会資本の一種であって、薄ぼんやりした論議をすべきではない。</p>	1件	<p>現場のやる気は教育の重要な要素と考えます。</p> <p>適正規模を具体的に検討した結果、ある程度の集団によるダイナミックな活動や、多様な学習活動の展開は、小規模な学校では実施が困難な場合があります。子どもたちが多様な人間関係を築き、社会性を身につけたり、多様な教育活動による効果的な学習を行ったり、集団の相互作用による思考力の育成を図るためには、ある程度の学校規模を確保する必要があると考えます。</p>

85	<p>10か町村が合併して日が浅い現時点で、教育の基本基盤を問う改編・再編をすることに、以下の諸点から反対する。</p> <p>①ユートピア学府栗原を掲げる栗原市の教育構想の一環としてのこの案には、本市の特色が盛り込まれていない。</p> <p>②本案は経済・経営の効率化を指向するのみで、本来あるべき教育観を欠いている。</p> <p>③旧町村時の教育実践の評価・長短を論じることなく、再編に直入するのは暴論だ。</p> <p>④小規模校が教育環境を阻害しているかを見るのは偏狭だ。小規模こそ最高の教育環境だ。(小規模校では登校拒否、学習不適應、反社会、非社会は少ない)</p> <p>⑤多人数による教育現場での競り合わせ禁物だ。そこには疑いなく強弱を生じ、人間信頼の絆を断つからだ。</p> <p>※通学区域は住民の意志で。</p>	1件	<p>これまで積み上げてきた成果を踏まえ、35人を標準とする学級編制、小中一貫校・中高一貫校の取り組みのスタートを切ることなどが特色であると考えています。</p> <p>栗原市教育基本方針に基づいて計画しており、そこにぶれはありません。また、行政運営においてコスト意識を持つことは重要なことだと認識していますが、このことのみを指向しているものではありません。</p> <p>合併により、旧10町村の制度と学校等の施設をそのまま引き継ぎましたが、学校再編問題は、栗原市教育委員会として現状から課題を顕在化して進めてきました。市内には現在7校、近い将来16校が複式学級となり、父兄から早急な対策が求められています。</p> <p>適正規模を具体的に検討した結果、ある程度の集団によるダイナミックな活動や、多様な学習活動の展開は、小規模な学校では実施が困難な場合があります。子どもたちが多様な人間関係を築き、社会性を身につけたり、多様な教育活動による効果的な学習を行ったり、集団の相互作用による思考力の育成を図るためには、ある程度の学校規模を確保する必要があると考えます。</p> <p>住民の皆様と話し合いを持ちながら、通学する学校等を決定してまいります。</p>
86	<p>統廃合後の空いた学校施設の活用・維持管理について、どう考えているのか。</p> <p>検討の材料として、各学校施設の築年数や規模などを資料として掲載するべきでないか。</p>	2件	<p>空いた施設等の活用については、それぞれの地域での話し合いによって、その活用についても具体的な提案をいただいたものについて、地域の皆様と一緒に考えてまいります。</p> <p>各学校施設の築年数・規模については、巻末に資料として掲載します。</p>
87	<p>栗原市に魅力を感じ定住を考える若者が増えるような環境整備を考えてはどうか。働く場所の確保や、産科・小児科の充実で安心して子どもを生み育てられる環境を整え、子どもを増やすことを考えてはどうか。</p>	2件	<p>栗原の産業振興、住宅施策、子育て支援など総合的に施策として積極的に取り組んでいます。具体的には、工場誘致にも取り組んでおりその成果が具体化しつつある状況です。引き続き努力を重ねてまいります。一朝一夕にその効果が現れるものではありません。このため、急激な児童生徒の増加が見込める状況ではないことから、現在と近い将来の児童生徒の教育環境を整える必要があると考え、学校再編について地域の皆様と真剣に話し合っていきたいと考えています。</p>
88	<p>少子化・過疎化対策や地域文化振興という政策と連動させた取り組みとして検討されるべき。例えば、小規模校を活かした特色ある教育環境作りによって人口の流入と産業後継者育成を図る等。学校施設を中心にして、学童保育や老人介護機能を充実させた教育福祉環境作り等。</p>	1件	<p>現状でも地域の皆様が懸命の努力をされておりますが、非常に厳しい状況となっております。ご提案は、理想としては理解できますが、その実現はかなり困難と思われます。今後の施策展開の参考とさせていただきます。</p>
89	<p>宮城県では、発生確率90%以上の高い確率で大地震が予想されている。文字小学校は、災害時の避難所に指定されている。小学校がなくなると、避難所が減少するが、これで市民の安全が確保できるのか？</p>	1件	<p>今後、学校再編について、地域の皆様方との話し合いの結果、合意に至れば、再編実施の準備期間において、避難所についても具体的に検討を進めていくこととなります。</p> <p>地域の意見と受け止め、再編後の施設利用との関連も含めて、関係する栗原市総務部危機管理室との協議など総合的に検討してまいります。</p>

90	学校再編計画案を策定するにあたって、学識者等だけでなく様々な年代、各地区の代表者・各職域の人々を参加させる必要があったと思う。	1件	栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。従いまして、この計画決定が即実施ということではありません。計画を決定した後、個別に地域の皆様方に、教育委員会としての基本的な考え方をご理解いただくとともに、さらに十分な時間をかけて具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行していくものです。このことから、計画の決定が、即実施ではないということをご理解下さい。
91	中学の部活指導は多分に過熱すぎ。猛練習で、帰宅したら疲れて寝るばかりでは学力向上も望めまい。	1件	中学校は、生徒の社会的自立の基礎を形成する重要な責任があり、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に向け、教育委員会は、活動時間、祝日等・長期休業中の部活動、各種大会への参加、顧問の心構えなどについて留意のうえ、これまで以上に適正な部活動の推進を求めているところです。行き過ぎのないよう指導してまいります。
92	学校では既に教職経験も教員免許もない民間人が校長として乗りこんでいる。公立高の男女共学も学区廃止も学校数減少も現場の教師の意見を一言も聞こうともしない。説明会が文科省の教基法改定のタウンミーティングの如きヤラセでなく、反対意見にも耳を植す集いであってほしい。	1件	3月に公表する再編計画は、12月の説明会やパブリックコメントでの意見を反映させた修正を行うこととしています。 また、今後予定している小学校区程度を単位とした地域ごとの話し合いにおいて、意見を真摯に受け止め、共によりよい解決策を見出してまいります。
93	計画案の型にはめて、その中で市民はものを言いなさいというのは、おかしいのでは？	1件	パブリックコメントは市政に関する基本的な計画や条例などを策定するときに、案の段階で市民等の方々から意見を伺い、その意見を考慮しながら計画等を最終決定するものです。そのため計画書(案)等の内容に応じた意見を、市民等の方々から募集する形式としています。 また、意見提出様式につきましては、市民の方々具体的に意見を提出しやすいように定めたものであり、様式に関わらず、計画書等の全体的な意見や各項目に関わらない意見等も受け付けておりますのでご理解願います。
94	小中学校について、現状の学校のままで ①40人学級 ②35人学級 ③30人学級とした場合、計画案で ①40人学級 ②35人学級 ③30人学級とした場合、また、幼稚園が統合した場合の園舎建設等を含めた、財政的なシミュレーションをしてほしい。	1件	少し時間をいただきますが、作成してみます。推計や試算の資料については、今後の地域での話し合いにおいて活用していきます。
95	教育費について、今後は「こうしたらこのくらいの金がかかる。だからこのくらいの増税になる。」などをはっきりと示すことが大切だと考える。	1件	現段階で、増税することは想定しておりません。今後の予算規模についても流動的な要素があり、単純ではありませんが、必要経費を試算し、今後の地域での話し合いにおいて活用していきます。
96	私は統廃合に反対である。児童生徒が0人になり、その地域が消滅したら廃校し、地域の集会所等に活用してほしい。それまでは学校をなくさず、地域を活性化させる働きかけを自分も、家族も地域も行政も努力していくことが大切と思う。	1件	教育委員会は、地域が消滅することを想定していません。過疎が進んでも、通学距離が長くなっても、同じ栗原市で生活する子どもたちに適切な教育を行っていくことは、教育委員会の使命であると考えています。 しかし、「児童生徒が0人となったら廃校」というのが基本の考えであるとすれば、教育委員会としては学校再編を協議する余地はなくなります。 地域活性化は大きな課題であり、市全体で努力していく必要があると考えております。

97	<p>学校は一度手放したら二度と戻らない。関係者の知恵と努力で、地域から学校を引き剥がすことは避けなければならない。小学校のない地域に若い新しい世帯は来ないし、誕生しない。栗原市内でも学校が集中する地域とその他に二極化される。市内でも周辺地域で更なる過疎化が進むことは明らかである。</p> <p>「栗原市の教育改革をどう進めるか」の根本も含め、もう少し時間をかけて市民の合意をめざす、人選も公募を多く入れたものとし、常にオープンな議論の空間（栗原市教育改革検討委員会（仮称））を設けることを提案する。教育改革の方向については市民の間に様々な意見があり、市教委はその意見の違いをそのまま固定的に見るのではなく、全市でも、各地域でも積極的な論議が巻き起こるようにするため、この提案を受け入れるよう要求する。</p>	1件	<p>栗原市立学校再編計画は、教育委員会としての基本的な考え方を示すものです。従いまして、この計画決定が即実施ということではありません。計画を決定した後、個別に地域の皆様方に、教育委員会としての基本的な考え方をご理解いただくとともに、さらに十分な時間をかけて具体的に話し合いを重ね、合意をいただいた上で実施に移行していくものです。このことから、計画の決定が、即実施ではないということをご理解下さい。</p> <p>今回、提示します再編計画を基礎として、積極的な話し合いが展開されるように進めてまいります。検討委員会については、市全体で改めて検討することは考えていませんが、地区ごとの話し合いの中で合意がある場合は、設置する方向で考えていきます。</p>
98	<p>果たして2学期制で学力は向上したのか。2学期制についての総括をしっかりと行い、市民の信頼を得ることが必須ではないか。</p> <p>いずれにせよ、上からの押しつけのような形だけは絶対に避けなければならない。もし、押しつけられたという気持ちをもつ市民が多くなるようなことになれば、そのツケは数年後、十数年後に必ず回ってくると考える。</p>	1件	<p>学校2学期制については、昨年度導入し、年度後半に中間総括を行いました。今後も、既に設置している「確かな学力・輝きプラン推進委員会」などの場で検証してまいります。</p> <p>後段については、まったく同感であり、適切にご指摘と受け止めさせていただきます。</p>
99	<p>適正規模・配置の検討が粗雑。特に、教育学や社会学方面から教育条件の水準として、先進国としてあまりにも劣っていないか等の検討が弱い。</p> <p>学校教育と社会教育や生涯教育とのかかわりで、例えば部活動は社会体育へ移行という全国校長会の展望はどう反映されるか等の検討が必要である。</p> <p>また、幼児教育と初等教育、中等教育という年齢の特性を踏まえた、例えば生活空間としての地域社会との関係の重要性や自力通学の意義等検討が必要である。</p>	1件	<p>栗原市立学校は、旧町村で設置された学校をそのままの状態を引き継ぎました。市内には複式学級を編制する小学校が7校（平成19年5月1日現在）あり、今後も増加していくことが予想されます。一定規模の集団を形成し、集団活動を通して、学力はもちろんのこと、人間性、社会性が育まれていくものと考えています。小学校区の違いによって教育環境に差異が生じることは好ましくなく、その公平性を確保していくことが必要であると考えます。</p>
100	<p>最近のテスト結果を見て分かるように、宮城県の学力は決して良くない。「学力向上」や「学校崩壊」対策を目的とした少人数授業に意欲的に取り組むためには、35人学級でも多い。ある研究機関によると、20人学級の理科では30人に比べ0.74点、40人に比べ3.88点高かった。私は、30人学級に何故設定できなかったのか、答申に対しどの程度尊重した内容の再編計画なのか。本計画を見る限り財政優先の計画ではなかったのか。勿論、全体の教育効果を高めるためには指導内容を工夫し、教員の資質向上を図ることが最も重要ではあるが。</p>	1件	<p>学級編制については、ご承知のとおり、国の現行制度は40人標準学級編制です。検討委員会の中では30人程度がよいという意見もありましたが、現行40人学級の中で当面は35人学級を実現させ、国の制度改正等を見極めながら、将来は30人学級も視野に入れていきたいという考え方があります。また、学級編制の標準を35人とすることで、実質的には、かなりの学級が20人～30人程度の学級編制になると見込んでおります。</p>